CNA レポート・ジャパン
Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan
創刊：1999 年 12 月
発行日：毎月 15 日・月末
PDF による発行
オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ　Vol. 27 No.19 2025 年 11 月 15 日

製品・サービス動向-国内

■Neat:大勢参加の Web 会議でも「会議室にいる感覚」で話せるビデオ会議を発表

（PRTIMES:11 月 10 日）

Neatframe 株式会社(https://neat-japan.com/)（東京都千代田区）は、ビデオ会議用デバイス「Neat Center(ニートセンター)」を Neat のメインユニットに２台同時に連携させる新機能「Multi Neat Center（マルチ・ニートセンター）」を発表した。

Multi Neat Center のイメージ（Neatframe）

ビデオ会議は、在宅勤務のみならず、国内外の拠点間連携や外部企業との打ち合わせにも広く利用されるようになり、企業のコミュニケーションインフラとして不可欠な存在となったが、一方で対面と遠隔が混在するハイブリット会議では、課題も浮き彫りになってきた。

リモート参加者が発言しづらく、存在感が薄くなりがち、発言者の表情や声のトーンがリモート側に伝わらず「会議室の雰囲気が読めない」と意思決定に影響したり、あるいは、大型会議室ではリモート側から“会議室で誰が話しているのか”わかりにくいといった声もあり、こうした背景から、大きい会議室こそ対面で参加しているようなリモート会議が求められているという。

Multi Neat Center は、Neat Center 2 台（カメラ視野角 360° x 2）+ Neat メインユニット（カメラ視野角 113°）=視界 833° を得られる。この視界感により、メインユニットのカメラと 2 台の Neat Center の 360° カメラのうち、参加者が正面を向いている映像に個別に自動的にスイッチすることで、会議室内の参加者がどちらを向いていても会議の接続先からは正面を向いているように見える仕組みを提供する。

本機能は、2025 年 11 月に、ファームウェアアップデートによる Preview 版を提供開始。そして 12 月には正式版をリリースする予定となっている。対象のメインユニットは、「Neat Bar Gen 2」「Neat Bar Pro」「Neat Board 50」「Neat Board Pro」となり、アップデートはオンライン経由で提供される。既存ユーザも設定のみで導入が可能となっている。

製品・サービス動向-海外

■Yealink：新型 T7/T8 SIP 電話シリーズを発表、ハイブリット時代に向けて、スマート・セキュア・効率的なワークスペースを再定義

（PRWIRE:11 月 4 日）

T7/T8 シリーズ（Yealink）

Yealink 社（中国・厦門）は、次世代 SIP 電話の新シ

リーズ「T7シリーズ」と「T8シリーズ」を発表した。T7/T8 シリーズは、最適化されたアコーステックシールド機能と高出力3Wスピーカーを搭載している。

本製品は、テクノロジー・信頼・持続可能性が交わる真の「スマートゾーン」を実現し、ハイブリット時代の企業コミュニケーションを再定義するとしている。

さまざまなレベルのビジネス利用に対応するよう設計された T7 シリーズは、中間層ユーザ向けに開発されており、洗練されたデザイン、カラーディスプレイ、そして日常的なコミュニケーションに必要な基本的なインテリジェンスを備えている。一方ハイエンドユーザ向けに設計された T8 シリーズは、先進的な AI ノイズキャンセレーション、緊急ボタン、抗菌素材、洗練されたインビジブルヒンジデザインを採用し、性能をさらに高めている。

また、持続可能性は、Yealink のイノベーションの中心に据えられている。すべてのモデルにおいて環境に配慮したパッケージと省電力モードを採用し、さらにプレミアムモデルである T87W および T88 シリーズには PCR（使用済み再生プラスチック）素材を使用することで、プラスチック廃棄物とカーボンフットプリントを大幅に削減している。

さらに、T7/T8 シリーズは、「3 層セキュリティフレームワーク」に基づき、デバイス・ネットワーク・データの各層にわたる多層的な保護を実現している。「コアリング」では、TEE（信頼実行環境）と安全な鍵管理により、デバイスの完全性を確保する。「シールドリング」は、802.1X 認証によりネットワーク接続を侵入や不正アクセスから保護し、企業コミュニケーションの強靭性と安定性を維持している。「ガードリング」は、TLS 1.3 以上の暗号化によって信号、メディア、ユーザデータを送受信中および保存時の両方で保護する。さらに、Yealink のエンドツーエンド鍵管理システムと組み合わせることで、これらの防御は堅牢かつ将来を見据えたセキュリティアーキテクチャを形成し、企業が世界中でコンプライアンス・機密性・信頼性を維持できるよう支援する。

T7-W モデルおよび全ての T8 モデル WiFi-6 と Bluetooth5.0 を搭載した。また、T8 シリーズには、「デバイスモード」が搭載されており、USB ケーブル1本でデスクフォンをノートパソコンに接続するだけで、プラットフォームを切り替えることなく利用できるようになっている。

同社によると、T7/T8 シリーズは、役員室やコールセンター、受付、オープンオフィスなど9つ以上の業界と数十の業務シナリオをささえ、プロフェッショナルがよりスマートに、より安全に、そしてより迅速にコミュニケーションできるようにするという。

Yealink 社は、ビデオ会議、音声通信、コラボレーション・ソリューションのグローバルリーダー。140 以上の国と地域で事業を展開し、ビデオ会議分野では世界トップ 3 のプロバイダーとして、また SIP 電話分野では世界第一位のブランドとして広く認知されているという。

ビジネス動向-国内

■リコー：リコーと Neat 社、グローバルパートナーシップ契約を締結、ワークプレイス向けのハイエンド AV ソリューション領域で協業

（11 月 6 日）

リコーデジタルサービスビジネスユニットプレジデント 入佐孝宏氏と Neat 社 CTO 兼共同創業者 Ivar Johnsrud 氏による調印式の様子（リコー）

株式会社リコー（https://www.ricoh.co.jp/）（東京都大田区）と Neat 社（https://neat-japan.com/）（ノルウェーオスロ）は、ワークプレイス向けのハイエンド AV（オーディオビジュアル）ソリューションでの協業に向け、グローバルパートナーシップ契約を締結し

たと発表。

Neat社は、AVソリューション業界のグローバルリーダーであり、高品質かつ革新的なビデオ会議ソリューションで広く知られている。リコーは、本契約の締結により、リコーが注力するワークプレイスエクスペリエンス事業において、AV マネージドサービス（AVMS）を中核としたグローバル体制をさらに強化する戦略的な取り組みとなる。

両社の協業で提供力を強化させた AVMS の導入により、お客様はシステム運用の手間から解放され、コアビジネスにより一層集中できるようになる。

このパートナーシップのもと、リコーは自社の AVMS に、Neat 社の「Neat Board」、「Neat Bar」や AI を活用したカメラソリューションなど最先端の音響およびビデオ会議の技術を統合する。AVMS は統合的な機器管理と運用・保守を提供し、オンサイトおよびリモート双方で重要な会議やセミナーを支える包括的なサービスとなる。

ビジネス動向-海外

■ Zoom Communications 社：Zoom、NVIDIA と協業し企業向けカスタム AI 開発をリード、金融・医療・政府機関などの業界で「AI Companion 3.0」を支援

（PRTIMES:10 月 31 日）

Zoom Communications 社（https://www.zoom.com/ja）（米国・カリフォルニア州、日本法人：ZVC JAPAN 株式会社）と NVIDIA（https://www.nvidia.com/ja-jp/）（米国・カリフォルニア州）は協力して、企業向けにより高速で高品質かつカスタマイズ可能な AI を提供していくと発表。

Zoom のフェデレーテッドアーキテクチャは、「NVIDIA Nemotron」のオープンテクノロジーを組み込む形で拡張し、金融・医療・政府機関などの業界で「AI Companion 3.0」を支援する。

このフレームワークは次世代ハイブリット言語モデルアプローチへと進化している。特定のスキルやタスクに対して低遅延かつ高品質の最適化された Zoom 独自の小規模言語モデル(SLM)と、高度な推論に対応するファインチューニング済の大規模言語モデル（LLM）の間でクエリを知的にルーティングする革新的な AI アーキテクチャである。この新たなハイブリットモデルは、企業の生産性とコラボレーション体験を加速し、コスト効率、品質、応答速度を最適化する。

Zoom は NVIDIA と協業（ZVC JAPAN）

Zoom の AI フレームワークはフェデレーテッドアーキテクチャを採用し、各タスクに最適な AI モデルを知的に選択する。このアプローチにより、Zoom AI Companion は NVIDIA の先進的な AI インフラストラクチャ・サービス・ソフトウェアを他のモデルと併用することで、機能強化と顧客のコスト最適化を実現する。これには、NVIDIA Nemotron を基盤に NVIDIA NeMo ツール開発された Zoom の新しい 490 億パラメータの大規模言語モデルも含まれ、速度・コスト・精度の最適なバランスを提供するとしている。

この革新的なアーキテクチャにより、企業や政府機関の顧客は、オープンモデルとクローズドモデル双方の最新技術を活用でき、コスト効率の向上、AI ワークフローの高速化、高度な推論能力の発揮、そして AI Companion 内での効率的なコラボレーションが可能になる。

この取り組みは、Zoom のフェデレーテッド AI アーキテクチャの次なる進化を推進するもので、最適なモデルを動的に組み込むことが可能。Liama Nemotron Super ベースの推論モデルも含まれ、精度・パフォーマンス・コストの理想的なバランスを実現する。Zoom が特許出願中のフェデレーテッド AI アプローチは、リアルタイム文字起こし、翻訳、要約において高品質なパフォーマンスを発揮することをすでに証明しているという。この新たなアプローチにより、NVIDIA のオープンモデル技術を活用して、Zoom の優れた性能をさらに強化するという。

なお、Zoom は、責任ある AI の実現を明確に掲げ、

セキュリティとプライバシーを生成 AI 機能の中核に据えている。Zoom は、顧客のオーディオ、ビデオ、チャット、画面共有、添付ファイルなどの通信内容や、投票結果、ホワイトボード、リアクションといった顧客のコンテンツを自社またはサードパーティの AI モデルの学習に使用することはないとしている。

導入利用動向-国内

■ブイキューブ：ディップ、クラウド PBX サービス「Zoom Phone」を導入、年間約 400 万円の電話インフラの通信・管理コスト削減を実現

（10 月 24 日）

株式会社ブイキューブ（https://jp.vcube.com/）（東京都港区）は、アルバイト・パート求人情報サイト「バイトル」などを運営するディップ株式会社（https://www.dip-net.co.jp/）（東京都港区）に、クラウド PBX サービス「Zoom Phone」を導入したことを発表した。

ディップはこれまで、カスタマーサポートの部署の一部で、オンプレミス型 IP-PBX を利用していたが、IP-PBX の販売終了とデータセンター閉鎖を機に、早急なサービス移行が求められていた。また、オンプレミス型では座席変更のたびに専門的かつ複雑な作業が発生し、管理・通信費用の負担が増加していた。そこで維持コストが安価かつ簡単、スピーディーに設定変更が可能な Zoom Phone が導入されたという。

同社では、掲載企業や求職者との電話対応を行う部署がある。特にカスタマーサポートの部署ではフリーダイヤルでの電話対応が必要という。コロナ禍をきっかけに一人一台設置していた固定電話を減らし、社員の約 9 割に携帯電話の貸与を始めた。これにより営業担当などは直接企業とのやりとりが可能になり、固定電話の必要性が少なくなった。

しかし、36 拠点のうち 10 拠点だけはオンプレミス型 PBX が残っており、IP-PBX を使い始めた 2016 年以降もデータセンターに設備が設置されたままの状態だった。電話線・LAN ケーブルをつないで利用していると、レイアウト変更時に座席にあわせて設定を変更する必要があり、対応に手間も時間もかかっていたのが大きな課題のひとつだった。そういった中、IP-PBX の販売終了とデータセンターの閉鎖の知らせがあり、早急に新たな電話サービスを検討する必要が出てきたという。

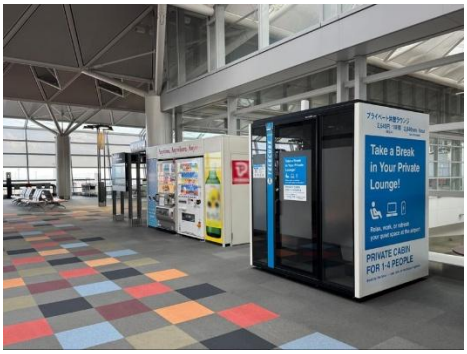
そこで、各社比較検討して試算したところ、Zoom Phone の導入で、年間 400 万円近くのコスト削減が期待できた。加えて、導入にあたって必要な台数を確認したところ、約 1,000 台から約 100 台へと棚卸できたという。

今では、Zoom Phone であれば設定は Zoom の管理画面から簡単にできるため、メンテナンスにもほとんど労力がかからない。年 2～4 回ほど行われる座席変更にもすぐに対応できるようになった。電話の運用は各部署に任せ、コーポレートサービス部門としてはアカウント管理だけを行う状態にできたことも利点として挙げる。これまでのオンプレミス型 PBX では、電話機の設置や配線などにまつわる知識が蓄積されておらず属人化してしまっていたので、Zoom Phone は誰でも簡単に使えるため安心という。

**導入事例の詳細：*
https://jp.vcube.com/zoom/case/dip-2

■ブイキューブ：中部国際空港セントレアに「多人数用可動式ブース」テレキューブを設置

（PRTIMES:11 月 12 日）



多人数用可動式ブース「テレキューブ」（ブイキューブ）

株式会社ブイキューブ（https://jp.vcube.com/）（東京都港区）は、テレキューブ株式会社（https://telecube.co.jp/ ）（東京都千代田区）t、2025 年 11 月 10 日より中部国際空港セントレア（https://www.centrair.jp/index.html）の国際線出発制

限エリア内（12 番ゲート付近）において、4 人用の公共向け可動式ブース「テレキューブ」の運用を開始することを発表した。

本取り組みは、空港における多人数対応型の可動式ブース設置として国内初の事例となる。主な利用例としては、家族・グループでの出発前の休憩、リモート会議・打合せ・身支度、小グループでの会話、軽作業など。

テレキューブはこれまで、コロナ禍を背景に“プライベートワークスペース”としての利用を中心に展開してきたが、アフターコロナの現在では「仕事」に限らない多様な用途での利用ニーズが急速に高まっているという。特に外国人旅行者を含む空港利用者からは、一時的な休憩や着替えなど、プライベート空間を求める声が多く寄せられている。今回の導入は、そうしたニーズに応える新たな試みであり、公共空間における多目的利用モデルの先行事例として位置付けられるという。

本体（4 人用多目的ブース）のサイズは、W2,000 x D1,600 x H2,350mm。設備内容は、テーブル 1 台・2 人掛けソファ 2 脚、電源（100V AC 2 口）、USB ポート完備、Wi-Fi 利用可、消音仕様のドア、遮音パネル採用、内部監視用防犯カメラ設置。

利用方法は、テレキューブサービスの公式予約サイトにて予約・会場・決済まで完結（クレジットカード決済）。即時利用の場合は、ブース掲示の QR コードを読み込み登録後に利用可能となっている。利用料金は 60 分あたり 2,640 円（税込、時間従量制）。利用時間は空港営業時間に準拠。

セミナー・展示会情報

＜国内＞

■Yealink × VTV ジャパン 共同リアルセミナー
オンライン会議室の未来を拓く！最新ソリューション体感セミナー

日時：12 月 4 日(木)［14:30 開場 15:00 開演］/
12 月 5 日(金)［14:30 開場 15:00 開演］
会場：東京会場（VTV ジャパン東京オフィス）
/大阪会場（同社大阪オフィス）
主催：VTV ジャパン株式会社
詳細・申込：
https://www.vtv.co.jp/seminar/2512vtv/

■ブイキューブセミナー情報（11 月）

「会議室不足と固定電話問題を同時解決！低コストで自由に実現するオフィス改革」「】【Zoom × V-CUBE】商談を自動採点！ Zoom と AI で構築する最強のセールスプロセス」など
会場：オンライン/オンデマンド/東京
主催：株式会社ブイキューブ
詳細・申込：https://jp.vcube.com/event/all

■Webex Meetings 関連ウェビナー（11 月）

会場：オンデマンド
主催：シスコシステムズ合同会社
詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：https://cnar.jp/cna/event-j.html
※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

オンライン会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月 2 回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議＆UC トレンドワッチ）
https://www.facebook.com/unifiedcom
■X（旧：Twitter）（遠隔会議＆UC トレンドワッチ）
https://twitter.com/cnarjapan
■メーリングリスト（dtc-forum）
https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999 年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm

お問い合わせ：inquiry@cnar.jp

お知らせ（重要）

―配信システムの変更について：

長年配信システムのひとつとして使用してきました、まぐまぐですが、すでにご案内の通り、まぐまぐでの配信を 2024 年 10 月末号にて終了いたしました。今後は、CNA レポート・ジャパンのサイト、X（旧ツイッター）、facebook ページ、dtc-forum メーリングリストでの配信とさせていただきます。

この定期レポートをまぐまぐで受信されている読者の方は大変お手数ですがいずれかの受信方法へご変更お願い致します。

>CNA レポート・ジャパン サイト
https://cnar.jp
>X(旧ツイッター)
https://x.com/cnarjapan
>facebook ページ
https://www.facebook.com/unifiedcom
>メーリングリスト（dtc-forum）
https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html

■CNAレポート・ジャパン 2025年11月15日号
ホームページ: https://cnar.jp